



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—170 2024.11.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

地方の深刻な課題

10月に発足した石破内閣は、「地方創生政策」を打ち出し、地方創生を再始動するとともに、地方創生交付金を倍増させるとの方針を示した。この間、何度も地方創生という言葉聞いてきたが、地方は衰退していく一方である。2014年、当時の安倍内閣が、東京一極集中を是正し、人口減少や地方の衰退に対処するための政策を打ち出したが、中央省庁での地方移転は、文化庁が京都市に移転（東京にも拠点が残る）しただけで、他の省庁においても、一部機能を地方に移転したに過ぎない。全国的な課題でもある少子化に歯止めがかからず、地方の人口減少は急激に進んでいる。

こうした中、行政に勤めていたものとして、私の思う地方の深刻な課題は、①公共交通問題 ②空き家問題である。

まずは、公共交通問題。利用者減少による路線バスの廃止、利便性の悪さによる利用者の更なる減少と負のスパイラル現象が起きている。交通空白や交通弱者のために、各自治体では、デマンドタクシーや乗り合いタクシー、巡回バスなどを運行させているが、使い勝手が悪いことや時間が限られていること等の理由から住民の評判はよくない。ある程度の財源があれば思い切った施策を打ち出せると思うが、財源には限りがある。また、鹿児島市内でも2024年問題や運転手不足と高齢化、独立採算性重視による便数の減少などが発生している。ドル箱路線は競合しており、利用者からすると無駄な運行をしているような気がする。民間事業者は、利益を追求しなければならず、結果的に公営交通

副代表 満永 正幸

が過疎部を運行すればよいと思うが、公営企業会計では、独立採算性が原則のため難しい。私の提案は、公営企業会計の見直しと交通税（県税）を導入し、公共交通財源に充てるべきと考える。現在、滋賀県が交通税導入を検討している。この税を財源として、都市部はバス運行に対する助成、肥薩オレンジ鉄道運行への助成、過疎部は病院・買い物・行政機関へのタクシー代助成などに幅広く活用すればよいと思うが。結果的に高齢者の免許返納が進むのではないかと考える。



2点目は、空き家問題である。一昔前は、長男が実家・本家を継ぐといったような伝統的な考えがあったが、今やそれぞれが独立した新家を建てる。または、町外への転出者等も多く、実家が空き家となって朽ちている危険家屋をよく見かける。解体して買い手がみつければよいが、空き地期間が長ければ、その管理も大変である。過疎部は特に大変である。この空き家問題には妙案がない。どうしたらよいか、住民も行政も手をこまねいている。

その他にも、生活利便性の低下（買い物・病院など）や経営者の後継者不足（もちろん農業も）、労働力不足など地方には特有の課題が山積している。どの課題にも特効薬はないが、国・県・市町村、住民が全体で共有し考え、解決しなければならない課題である。

戦争しない!! 10.13 かごしま大集会



集会は10月13日(日)午後、JR鹿児島中央駅東口広場で開催、およそ250人の参加でしたが、集会の時間帯には桜島の噴火・降灰があり、会場もうっすら白くなりました。

「戦争反対!」を掲げる6団体(①鹿児島に米軍はいらない県民の会、②戦争しない国づくり応援団、③あいら九条の会、④アイ女性会議、⑤憲法壊すな! 戦争法廃止かごしまの会、⑥鹿児島を戦場にさせない県民の会)の実行委員会により開催されました。

県内各地の状況について5人の方から以下のような報告がありました。

1)「川内港軍事利用問題」～自衛隊や海上保安庁が民間施設を円滑に利用できる「特定利用空港2ヶ所・港湾6ヶ所」が今年8月県内で指定され、川内港もその1つになった。有事になれば物資の補給などに利用され、軍事拠点となり攻撃の対象となることの不安が語られました。

2)「さつま町弾薬庫問題」～2018年5月「町商工会・町議会・町職員」は大分の弾薬庫を視察、この直後に町商工会議所は請願書を提出、6月議会で全会一致で採択。12月には熊本防衛局へ要望書を届けている。2021年12月住民説明会で町長は「企業誘致だ」と説明、防衛省は安全性のみを説明、町長は住民の不安は払しょくされたと私たちの声には耳を傾けるということはない。スタンディング行動で反対行動を訴えています。

3)「鹿屋無人偵察機配備問題」～2005年米軍再編を受け岩国基地からの空中給油機受入れる。2016年からはオスプレイが飛来し、病院や学校などの上空を飛ぶ。アメリカでは絶対にありえない行動・訓練だ。2022年には1年間だけ実施するとして150～200人の米軍が鹿屋に常駐した。いま防衛省は鹿屋基地が偵察機の基地を想定していることを語り、鹿屋・浜田漁港を改修して給油備蓄の計画。偵察機は単なる偵察のみではなく、爆撃機になることが明らか(ウクライナ戦争を見れば)。

4)「馬毛島基地建設問題」～当初、アメリカの空母艦載機訓練施設は受け入れられないと関係する1市4町が反対。そこで方針転換、自衛隊なら良かろうと「陸上自衛隊・海上自衛隊。航空自衛隊」3部隊が一緒に運用する施設へ。こんな施設は日本の基地で1ヶ所もありません。これまで8,800億円がつぎ



込まれ(税金)、アメリカは一銭も出していないのです。しかも工事は全て「随意契約」で国会での議論もなく進められている。完成時期が3年程度遅れるというが、現在でも西之表住民は生活への悪影響が深刻化していることが語られています。病院のひっ迫、宿不足、交通渋滞、家賃の高騰等など、推進派をして「こんなはずじゃなかった」となっている、との報告がされた。

5)「奄美ミサイル基地問題」～2019年3月名瀬に駐屯地・瀬戸内に分屯地が開設。(奄美駐

屯地は地対空ミサイル基地それに電子部隊が加わり 450 人、瀬戸内は地対艦ミサイル基地



210 人)、それぞれの基地には当初予定されていなかった弾薬庫やミサイル格納庫ができつつある。この間、数次にわたる米軍と一体となった訓練が実施され、徳之島・喜界島でも上陸訓練・空てい団のパラシュート降下訓練がなされ、10月23日から11月1日の間も大規模演習が計画されているとの報告。

集会はシュプレヒコールの後、電車通りでプラカード

アピール、政党などの訴えがありました。

.....

日米共同統合演習(10月23日～11月1日)、奄美で抗議行動

自衛隊と米軍が実施する共同統合演習「キーン・ソード(KS) 25」が23日、奄美群島などで始まりました。日本周辺の海空域や自衛隊・米軍の各施設などで行う実動演習で、有事で負傷した隊員らを沖縄経由で、福岡と埼玉の自衛隊病院に運ぶ一連の訓練を初めて行います。11月1日まで。KSは実動演習と指揮所演習を隔年で実施。実動演習は17回目で、奄美群島では2022年11月以来2回目。前回に続き奄美大島と徳之島のほか、今回初となる喜界島と沖永良部島の計4島で訓練が行われました。訓練の一般公開は25日午前8時から、徳之島町花徳海岸で自衛隊員約300人が参加する着上陸訓練(水陸両用作戦)などを予定。F15戦闘機による連続離着陸訓練(タッチ・アンド・ゴー)は奄美空港で27～28日、徳之島空港で30、31の両日、それぞれ行うとされています。



奄美ブロックが参加する「奄美の自然と平和を守る軍民会議」では、タッチアンドゴーの訓練が行われた奄美空港デッキ上から、横断幕を掲げて抗議の行動を行いました。

今回の訓練に使用された陸自のオスプレイが機体の不具合で、沖縄与那国島や鹿屋基地への緊急着陸するなどの事案が発生しました。鹿児島県屋久島沖での死亡事故後も、十分な検証もないままに危険なオスプレイが飛行継続されており、またも事故が相次ぐ事態となりました。

大隅ブロック第22回定期総会を9月27日(金)18時30分より「肝属教育会館」で代議員・役員24名(うち委任状5名)の参加で開催しました。総会は議長に県職労の荒殿一樹代議員、鹿教組の喜入智子代議員を選出。一松平和運動センター議長は、挨拶で、自公政権の不当性や県内の軍事基地化など平和と生活がおびやかされている現状に危機感を持つことの重要性を訴えました。また今年は役員改選の年で、議長以下の留任が、承認されました。総会は今後も憲法を守りぬき、平和を追求していくために、市民、平和を希求する団体等と連携し団結し取り組みをすすめることを確認して終了しました。

始良伊佐ブロックは、10月31日にさつま町上野町長・さつま町議会宮之脇議長に対して、「さつま町の弾薬庫建設に反対し、自衛隊施設誘致の撤回を求める要求書」を提出するとともに、両職に対して申し入れを行いました。

今回の誘致問題が、地元はもとより周辺自治体住民も寝耳に水の話として起こり、危険な軍事施設は「有事」の際の被攻撃拠点となりかねないことから、周辺自治体の住民団体として、今回「北薩ブロック平和運動センター」に引き続いて申し入れを行ったものです。

第8回弾薬庫建設反対スタンディング
日時：11月24日(日)14:00～15:00
場所：山崎交差点(ローソン前)
連絡先：北薩ブロック平和運動センター
(0996-22-3075)

なぜさつま町に弾薬庫建設なのでしょうか？



防衛省は現在所有している弾薬庫1400棟に加え、新たに弾薬庫を130棟増設するとしています。何故なのでしょう。岸田政権時に閣議決定した「敵基地攻撃能力の保持」のため、南西諸島にミサイル基地を多数設置しており、そのために弾薬庫も増設がなされています。まさに、危険な施設の建設に相違ありません。また、さつま町は「川内と鹿屋との利便性がいい」と言う理由です。弾薬(ミサイル)は川内港 → グリーンロード → さつま町弾薬庫 → 北薩横断道路 → 高速道路 → 鹿屋基地へ → グリーンロード → 川内駐屯地へ

鹿屋基地・川内駐屯地がミサイル基地へ？＝攻撃される対象になってしまいます。

※川内駐屯地の西方10kmには川内原発があります。

川内駐屯地が攻撃されると誤って原発が破壊される危険があります。